

29P-am141

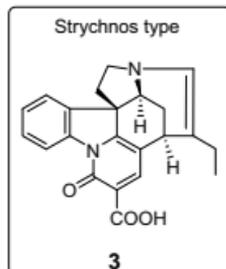
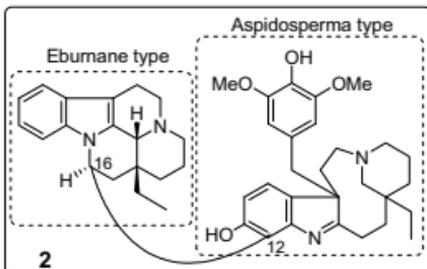
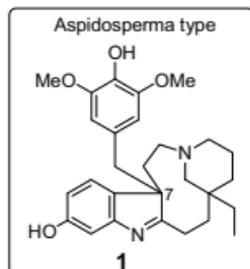
中国雲南省産 *Kopsia arborea* 含有新規アルカロイド成分の探索研究

○佐々木 みゆき¹, 呉 煜秋¹, 北島 満里子¹, 小暮 紀行¹, 張 榮平², 高山 廣光¹
(¹千葉大院薬, ²昆明医学院)

[目的] キョウチクトウ科植物 *Kopsia arborea* は中国雲南省に自生する植物で、関節リウマチ、浮腫、咽頭炎の民間伝承薬として用いられている。我々はこれまでに本植物より特異な構造を有する数種の新規インドールアルカロイドを単離している。¹⁾今回、更なる新規生物活性新規アルカロイドの発見を目的とし、*Kopsia arborea* の地上部の成分探索を行った。

[方法・結果] *Kopsia arborea* の MeOH エキスから調製した Crude Base 画分を各種カラムクロマトグラフを用いて分離・精製し、7 位に benzyl 誘導体をもつ Aspidosperma 型アルカロイド **1**、**1** と Eburnane 型アルカロイドが結合したピスインドール **2**、Strychnos 型アルカロイド **3** を含む新規アルカロイド 5 種と既知化合物 12 種を単離した。新規化合物の構造は、NMR を含む各種スペクトルデータを解析することから推定した。現在 **1**、**2** の立体配置について検討中である。

New Alkaloids from *Kopsia arborea*



1) Wu, Y. Q. *et al.*, *Tetrahedron Lett.*, **2008**, *49*, 5935-5938